

2335

日本百將傳一夕話

士尾

日本百將傳一夕話卷之十二

東都

目錄

松亭金水謹撰

○ 毛利元就

○ 北條氏康

○ 武田信玄

○ 長尾謙信

○ 齋藤道三

○ 織田信長



- 織田信忠
- 柴田勝家
- 豐臣秀吉

以上九將目錄終

永田姓



平城天皇第三皇子
阿保親王正尹
備中守本主三始大江
江匡房四代孫前大膳
大膳元孫四代天
下政道師範十五代
右馬頭
陸奥守
大江元就

隆元
備中守
吉川駿河守
從四位
小早川左門佐
從三位中納言
隆景

毛利元就

人皇百七代 正親町院元龜元年五月卒
今安政三丙辰追二百廿七年成

毛利元就者姓大江氏初攻陶氏而滅之
擊尼子而克之遂領山陰山陽十餘州

元就の從兄本源六郎通忠ハ為人至孝少人その徳を稱す元龜元年雲
及諸根の陣を左の膝にて射らる鐵骨髄小遺すを應に元就元來士
をさす。飢渴を忍ぶが如く。因て通忠を診せむと鐵を抜むと應に
科小太政大臣を斬る元就所へ退け。躬口を以て腹を吮ふ果て遺溺は
中に入る。因て痲痺快む。通忠恩を感。死に恩を謝せんと元就其の面を
と。汝が舉動を感。存す恩伝と。大勇の者小中。深く誠めけり

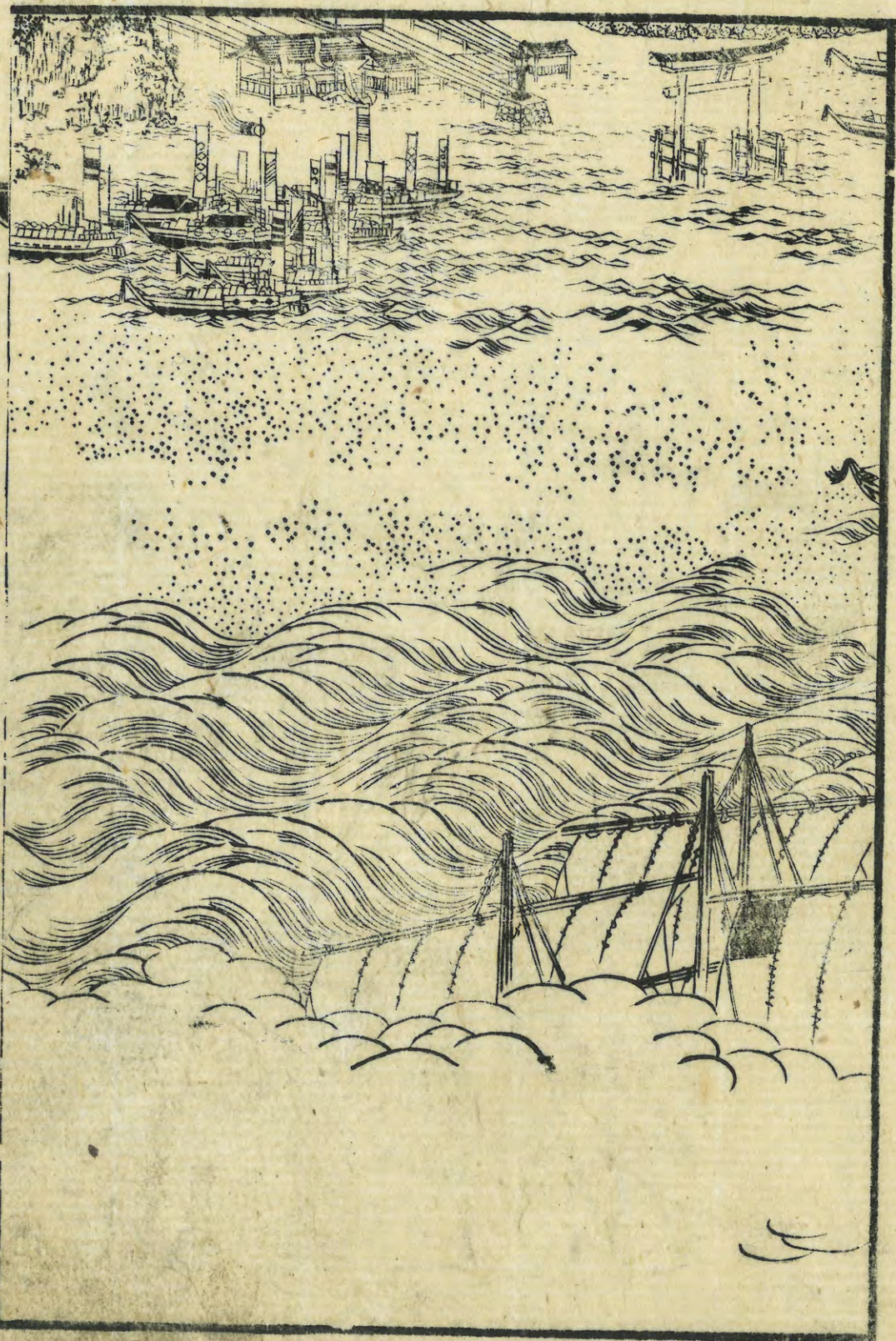
毛利元就の詔

大膳大夫廣元ハ頼朝ハ使政事を輔佐し。後念の賜なり。その子廣仲・勇秀
光大ハ左近將監といハ相模ヨモリ利の莊を領し。世々小居を以て氏を毛利と改めけり。かく
て其子推後で元就より叔代安藝國小下高田郡小放で僅小辛貫の地を領し。七千貫
然まも名家の藩めて武備懈るをなけり。父を侮り犯さる威名高く。父元就ハ其子孫
小放を自らの勢ひあむ。その頃雲別當田の城主元就久其の時久鹽谷貞貞の孫
少。其の雲別當の事を夷け。その子孫相續で漸く小威を振ひ。今經久の世も及びて威權西別小
冠。元就ハ其の旗下小放。其の經久權威ハ憑據して。非道恣な。其の父も多けり。
元就大志あり。其の良相も多し。其の足跡を以て。其の當時防長豊筑を領し。威勢元就小威せり。
大内公義隆ハ京都將軍家の因縁。衆人こぞを貴む。元就ハ其の内元就小威せり。
大内小放。其の經久。其の父怒り。天文九年の秋。經久父子大軍を率て安藝小放。元

就守る。其の吉田の城を圍に攻む。元就溝を以て。其の壘を以て。其の守る。其の收。其の月。其の
其の防。其の使。其の防。其の列。其の遣。其の援。其の兵。其のを。其のけ。其の義。其の隆。其の徳。其の家。其の尾。其の海。其の守。其の賢。其の兵。其の
援。其のけ。其の援。其のむ。其の時。其の賢。其の防。其の列。其の雷。其の發。其の安。其の藝。其の小。其の到。其のて。其の是。其の極。其の久。其の晴。其の久。其の軍。其のを。其の分。其の陶。其の
戰。其のひ。其の挑。其のけ。其の危。其のる。其の軍。其の勢。其の戦。其のひ。其の光。其のを。其の國。其のへ。其の門。其の飯。其のを

後太平記に按ふ。云々。大に元就父子相伴ひ。大内太宰大貳義隆。恩附七。聽
て。其の於。其の地。其の上。其の種。其のの。其の孫。其の室。其のを。其の結。其のを。其の義。其の晴。其の卿。其の功。其の感。其の法。其のを。其の比。其の津。其の希。其の近。其のを。其の是。其の今
大敵。其のを。其の引。其のひ。其の利。其の運。其のを。其のこ。其のとも。元就。其の武。其の勇。其の千。其の雄。其の万。其の英。其の不。其の越。其のを。其のと。其の義。其の感。其の斜
な。其のむ。其の是。其のより。其の天下。其のの。其の人。其のを。其の振。其のむ。其のを。其のこ。其のな。元就。其の孫。其の累。其の西。其の海。其のを。其の便。其の向。其のふ。其の教。其の順。其のを
と。其のよ。其の是。其の旧。其の十。其の三。其の米。其のの。其の春。其のの。其の作。其のを。其のこ。其のとも

附て。其の父。其の毛利。其の元就。其の名家。其の貴族。其のの。其の高。其のなり。其のこ。其のとも。人間。其の盛。其の衰。其のの。其の理。其のふ。其のて。其のそ
家。其の且。其のく。其の沉。其の落。其の。安。其の藝。其の國。其の富。其の田。其の郡。其の小。其の僅。其の小。其の七。其の千。其の貫。其の三。其の千。其の貫。其のの。其の地。其のを。其の領。其の小。其の叔。其の代。其の弟。其のを



嚴島の海濱
 元就陶全姜
 軍を破る

在はて元就智勇若備小者て賢小強て士を愛に仁を以て人と懐け家の再
興を謀らまけり果して疎慮を國小當て終小山陰山陽を界し中別十一列の
太守となりて美名後世小輝きける。さうは生涯戦の功拔擢小暇もまじり
ども就中陶晴賢叛逆をての君を戦て義隆既小最期小及び。の怨を報ん
ぬ。元就の使小あづび思をの婦小隆元ハ塔小すつて遺書あり。元就の遺言
小使小兵を護しと陶を討て義を全うしと逆必魔くしと等や功の才一ありん。ゆゑ小
その事蹟を左小録に載せども程楮小て事を盡小しやうざうハ例の畧傳をて之
を小周防山口の城主小向多々良義隆ハの書小内義弘小傳小もつる。但先ハ
義弘の琳聖太子小推古の世より今小至り連綿小る家系をて義弘を承る應永六年
叛て起しと燬小戦死しと家没収せしとまで收代名家の裔小あり。將軍小が省思あり
義弘の子新小弘茂小周防の王を賜りて其餘領をての六箇國にまゝ没収せしとあり。ゆ

これより義隆小至り。既小六代小なるうち大内小義興ハ將軍小功ありて是より
熾小なり。防長豊筑の收別を領し。その官太宰大貳小昇り。九國中別小冠小まゐる。應
仁の乱の時公卿をの援を避ては小來り義隆を憑む因てはの警策小示現念の上小あり。
こ小天文八年。勅使下向の王ありて天使、東大寺阿闍梨三條房信、日野大納言資實を
務惟治ありける。義隆これに答應する。領地ハ除内の課税をえり。こ小大内家の舊臣。陶ハ
同小若小ふ在り。這ハ國初よりの重臣。少々州尾張守晴賢ハ殊更義隆の者まじり。その
勢ハ君を凌ぐ。然るに這般の天位ハ満ちき小あづびを。渠が領地ハをえらる。晴賢は之を
患に之を傳の夫役とのども我領地ハ除くべき小前代未聞の事。之がまて家系を傳らる
君とのとも恐るまじとす。及び同小郎隆房一族安房守隆信を始。病氣と号しと府を
還き。若山の城小守りて。是夜謀叛の計。急意に悲しむ。義隆ハ。謀叛のありと。あづび花小
詠小月小吟とて。家系小流小心を妻。後月卿雲霞の交。不明し。きりけり。時小天文二十年秋

うるわ 濡しけり。依る由あづき小あづきまづ人といふ。処をきて我必あづき人となり。小身小い。夜荒木村の
 手裏 梢のまづき。若も教うと孩童。石小走ると洞水のまづ小。膝を冷し。漸く小と府川の雲。大寧ま
 なく のをかき。小動の波。痛のまづみ。心喜提の雲。霏れん。頓ての寺小入る。こゝ大内家の建
 る。まづ世々の菩提所。あづき。住僧。あづき。清。有。轉。後。の。世。の。景。勢。を。頓。小。嗟。歎。し。こ
 ち。然る小陶。軍。在。る。ハ。提。の。跡。を。慕。ひ。や。近。村。れ。と。雪。え。く。わ。て。ハ。長。く。延。ん。と。あ。づ。く。小。懐。ひ
 ぐじ。雅。兵。の。小。掛。で。駭。て。路。傍。小。曝。さん。より。こ。小。自。害。を。こ。小。若。ど。と。則。寺。傍。小。硯。を。乞。て
 う。ひと 村。の。人。も。う。ろ。ろ。人。も。法。と。り。小。如。露。亦。如。電。應。作。如。是。觀
 う。ひと と。書。て。その。ま。筆。で。抛。投。け。こ。こ。ま。筆。小。あり。あ。雲。上。を。拈。め。あ。く。料。紙。を。と。も。筆。を。深。て
 あ。ひと 秋。風。や。ま。着。が。来。小。凡。あ。と。て。恨。む。殊。く。雲。の。う。ま。ま。く
 こ。ひと 兄。や。う。の。煙。も。雲。も。半。天。小。さ。さ。ひ。一。凡。の。ま。ま。も。殊。ら。げ
 こ。ひと お。と。ろ。消。ゆ。け。よ。の。ま。ま。小。い。と。吹。か。う。る。松。風。の。ま
 こ。ひと 二。條。藤。房。信
 こ。ひと 冷。泉。判。官。隆。豊
 こ。ひと 畠。郊。在。遠。川。大。夫。隆。景

末の部下の家と詔をよみ。あまは先づ世の懐ひとて
不來不玄無死無生。今日雲霧峯頭月明。
天野藤内隆興
る所後わきどら小畧に。かく義隆二通の書と封下。相良遠江守氏任小委祐。不日小達し
へとある。武任も諸共小死殉じると名ひうと。遺書二通と托せり。泣くらを立出てまふ不見玉
津和野より越え奔見大森大浦正頼小つじ。まゝ一書ハ安流小到也。毛利備中守隆元小つと
いふ身ハ本國統治の尾花の城少を降すは。依も彼逆賊等寺門隘りと鉄入けさ。義隆七族
め一族不從。まら小く自害せり。

然る小の時小藤ミ系師の礼を避て小在る。月卿雲客多き中。小弟因に藤尹房。弟友
 ざんとうのきんよりさちうかうとんのうともいひけり。中納言藤基頼從二任衣兵衛督及親
 大佐藤公頼方中將藤基量ハ害せざるひけり。中納言藤基頼從二任衣兵衛督及親
 せのハ。ミ系利義とて逃亡し。ふ裏まとも悔まとも。ひへういあふさうけや
 再此の後陶晴賢豊後の國主宗麟が重弟。大友三郎義長と迎へて。義國の王と云ふ。

躬國政を専らし、かくそを見、正頼も、安國毛利隆元へ義隆最期を遺せ、書に「陶時賢
が、近心より。今日既、小月、毒小及、頼公、不日、小兵、起、一、逆賊を誅戮。我、勢、忽、と、晴、さ、る、全
あ、さ、さ、と、涙、小、く、と、争、違、背、る、ま、と、と、躬、親、心、小、悲、々、と、陶、が、威、勢、失、小、此、方、何、と、も、小、勢
小、を、て、愁、る、と、は、知、し、志、を、遂、さ、る、と、天下、の、人、の、嗤、と、と、と、と、種、々、疎、慮、を、廻、り、け、り。小、放、て、三、年、の
光、陰、を、徒、小、過、し、や、弘、治、元、年、と、な、り、け、り。晴、賢、雅、賢、と、全、美、と、野、い、く、威、を、逆、國、小、振、ふ、隆、元
等、は、と、悔、で、い、い、せ、ん、と、後、け、り。小、の、弟、小、甲、川、左、衛、門、佐、隆、景、い、の、衆、三、千、を、進、み、歩、の、と、さ、う。
全、美、恭、虎、小、の、君、を、弑、さ、る、と、天下、の、罪、人、多、り。自、世、小、ま、づ、く、は、こ、と、と、天、皇、幕、府、小、告、天、許、を
満、て、義、兵、を、奉、る、を、暴、を、代、る、と、と、懼、る、小、思、さ、る、と、備、小、聞、く、天下、の、兵、を、奉、る、と、も、彼、大、教、小
克、へ、く、は、天、勅、を、受、け、り、小、あ、る、天、罰、を、戒、め、り、小、の、難、さ、と、さ、る、と、い、ふ、を、受、て、元、就、も、の、後、論、主
極、せ、り。と、則、備、中、守、隆、元、小、書、を、送、く、と、て、永、郊、小、献、む。天、朝、府、刻、と、を、受、て、全、美、誅、伐、と、許、し
の、此、より、石、見、の、正、頼、小、告、國、中、の、兵、を、催、し、不、日、小、發、行、さ、る、と、も、陶、全、美、と、を、受、て、小、侮、め、笑、つ、て、曰、

彼、が、分、際、を、受、て、我、大、教、を、授、け、ん、と、企、つ、と、喻、を、さ、せ、り、と、大海、を、埋、ん、と、さ、る、と、一、彼、が、自、ら、我、を、中、小、あ、う、と、
六、万、余、騎、を、率、て、防、刻、を、奔、り、安、藝、小、向、ひ、け、り、
吉、見、正、頼、相、良、武、任、を、除、肉、小、因、と、も、諸、志、を、稽、ら、ひ、國、兵、共、小、合、し、と、南、く、二、万、餘、騎、吉、田、の、城、を
雷、鼓、と、入、ま、さ、る、と、六、万、の、大、軍、を、率、て、海、路、小、進、む、と、も、嚴、密、に、責、め、と、か、け、け、り、と、小、濱、い、十月、廿、九、日、
夕、陽、小、降、と、大、風、起、り、波、濤、宛、も、殺、す、丈、逆、浪、岸、を、洗、ふ、小、因、と、も、船、を、行、き、せ、り、と、ま、の、目、を、怒、り、却、り、風
の、お、む、を、待、て、と、陶、が、兵、船、艦、舳、を、揃、へ、の、海面、小、屯、と、も、旗、旗、い、小、範、へ、り、千、里、の、海上、陸、地、小、似、と、
と、然、る、小、大、に、元、就、さ、る、と、ま、の、隊、伍、を、定、む、と、小、甲、川、隆、景、と、吉、見、正、頼、い、大、手、小、向、ひ、大、に、元
就、嫡、子、隆、元、吉、川、元、春、完、隆、家、上、原、元、祐、い、櫓、手、小、む、と、然、と、も、の、風、小、遭、て、船、を、操、り
と、怒、り、空、く、岸、を、小、隙、け、り、と、夜、半、小、及、ひ、元、就、い、や、う、怒、意、も、の、風、小、向、者、い、あ、じ、と、必、ひ
馬、断、と、備、へ、を、後、け、り、と、ある、志、を、釋、さ、る、と、や、全、美、大、軍、あり、と、も、と、一、舉、し、と、勝、利、を、得、ん、備、小、准
備、さ、る、と、と、陳、小、解、知、し、桐、弘、平、除、被、小、業、と、教、弘、小、を、付、と、も、果、と、教、弘、備、中、を、以、十、分、小

後太平記の時小元就陸奥守小住卜隆元大膳大夫小住比とある但柔摑の所紋の王を不

年歷正元就同

平氏綱 多子 北條左京大夫
氏康 辛ヤス 左京大夫

氏政 左京大夫
 俗に山田系のの傳は
 とりのは是を果す
 すりは五代まで減ふ

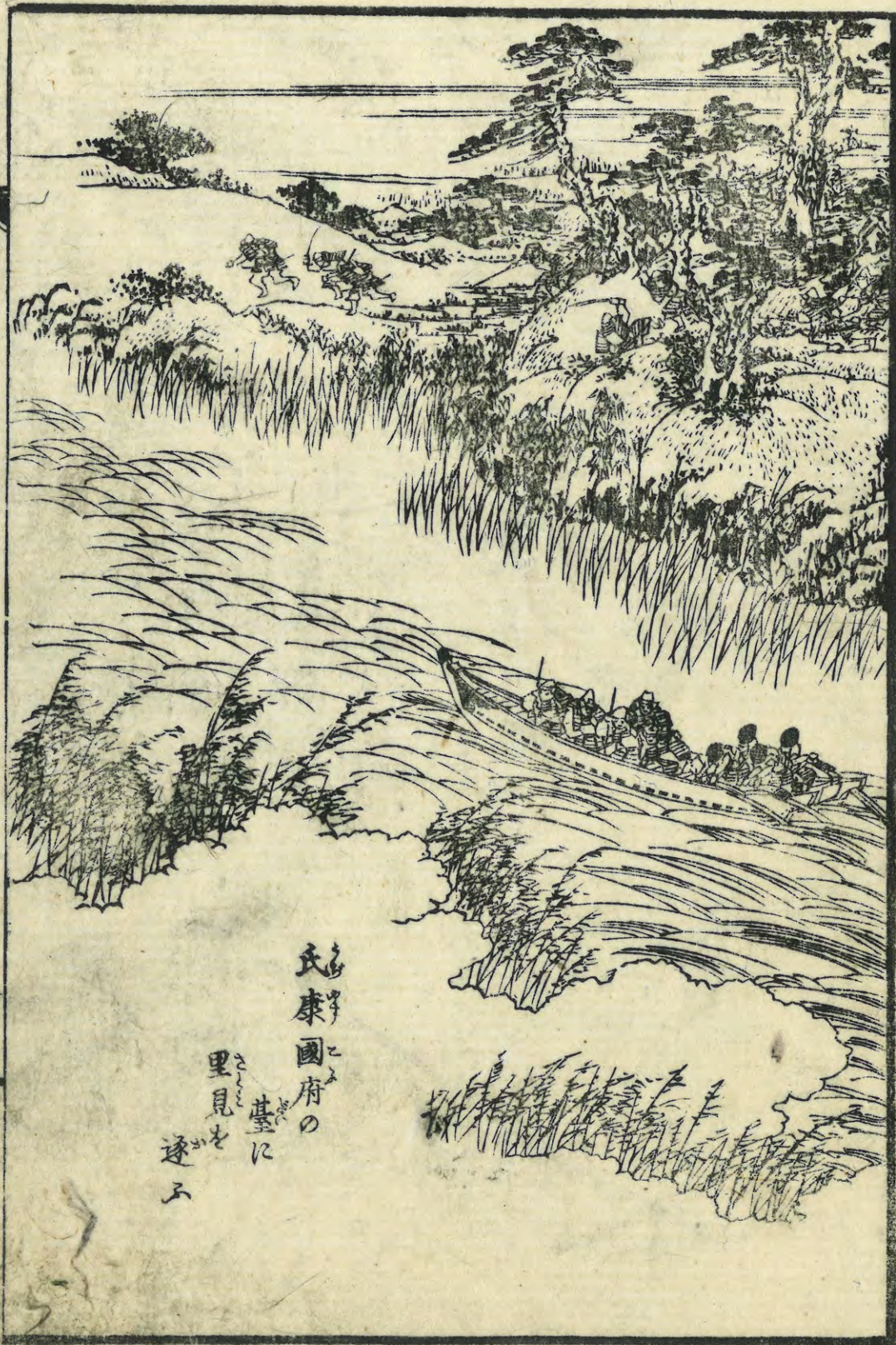
傳小のそ 氏康が武備の職なる人なま 智所之。ま 和方城ねてけ 涯秀
 逸多一 武夏のやぐと。る 樓小登と 涼とけるをりふ。孤の唱けるを。近旁小傍
 せける人々。と 日六 足様のよりいひけと。氏康とをわむ。夏ハきの 孩小を 傳の
 かう衣おのしつかり身の上ふきよと 柳とけり。夜明て 月六 孤死てわとけるとぞ

北條氏康の詔

あまより帝祖父北條早雲相公小田原の城主大森筑前守と交り。常小田原の友より。或るとき備あてを窺ひ。將小假託て大森を遂ひ。竟小田原の城を果取て。小原に就小。世小及ぶ。氏康が父氏經も。武畧あつて。近國を靡け。漸く威を熾ん小。然る小氏康は。智量拔群。而て。その德父祖小。超言。開東の兵士多く。従ひて。關の南を名を。其を。小國東の常領上。秋憲改上。秋制定。山の内。扇谷の兩上。秋と稱して。世東國の豪族。其。肩を並ぶ。者も。あり。小氏康は。兩家を。轉て。開。八別を。掌握せんと。企て。兵を出し。て。ことと。數ふ。と。秋田。氏康。每。度。利を。得。るといふ。ども。其。將。孫。金。の。舊。家。を。言。ふ。輒く。言。を。違ふ。と。憤。り。む。然る。小。今。年。天。文。七。戊。戌。は。ま。く。氏。康。兵。を。出。し。武。別。入。間。川。の。邊。小。陳。を。其。勢。八。千。餘。騎。と。免。兩。上。秋。と。言。は。れて。八。別。の。兵。八。万。を。率。ひ。出。て。と。小。會。戰。也。氏。康。十。分。六。の。兵。小。て。更。小。敵。對。と。能。む。と。一。戰。小。も。及。む。と。引。退。く。上。秋。の。兵。さ。も。と。を。あ。免。と。凱。歌。を。兵。を。還。せ。氏。康。ま。く。

兵を出し。孫金小。迫り。迫り。上秋兵を進む。ま。く。退。り。て。城。小。入。り。敢。て。戰。ひ。て。挑む。と。上。秋。が。兵。を。言。は。れ。氏。康。が。軍。忍。小。足。ら。び。と。將。卒。と。小。大。小。橋。を。急。慢。し。て。備。を。設。け。保。つ。と。い。ふ。を。多。く。氏。康。密。小。間。を。放。つ。其。懈。り。を。見。渡。し。頃。八。月。十。九。日。八。千。の。兵。を。三。隊。小。領。け。上。秋。が。陣。を。破。ふ。と。更。小。霹。靂。の。奔。り。如。し。其。軍。石。を。小。出。て。り。將。大。軍。一。時。小。紊。亂。致。て。戰。ん。と。言。者。な。く。蹂。躪。し。て。追。ぎ。奔。る。氏。康。頗。小。こ。ま。を。輕。く。小。於。て。扇。谷。の。上。秋。初。定。ハ。討。死。し。尚。の。上。秋。憲。改。ハ。孫。金。小。入。る。上。野。の。國。平。井。小。走。る。氏。康。勝。小。衆。し。と。言。小。迫。り。憲。改。今。ハ。戰。力。弱。く。終。小。氏。康。小。降。り。け。氏。康。其。時。氏。を。降。解。と。し。晴。氏。の。弟。賴。純。を。下。野。の。喜。連。川。小。居。り。め。け。り。と。小。於。て。上。秋。の。威。を。一。切。小。衰。へ。果。氏。康。八。別。小。氏。名。を。張。る。

後太平記を按る小北條氏綱氏康威を震ひ。其。後。享。祿。三。年。より。武。元。小。攻。入。上。秋。と。言。は。れ。と。三。度。悉。く。勝。利。を。得。て。一。族。上。總。公。を。川。越。小。置。く。其。後。天。文。七。



是氣

是より後天文二十年辛亥北條氏康兵を殺し上野平井の城に在り上杉憲政を攻めり

けが。憲政防禦の御盡て則平井と没落。越後小毒王國主なる長尾景虎と執事なる景
虎窮鳥の懷小入るを憐まるとをを保護し屋形と称して國内小安く。氏康をより憲
政の子弟を捕へて是を殺し關東悉く掌握ひ。その時小安つゝ上杉憲政關東管
領と上杉の称号とを景虎小譲る。因て長尾と更めて上杉と稱をあり。遠ハ徳依の傳小の

按る小氏康の祖父早雲が國寺の城に居て諸國の凡て監禁し東列の凡て強隆
 といふ嘉保の士もまた多く海内を係せんと志を立る者も東列を執小在りと開
 東を相窺ひ上杉氏と袂肩する。連年小及ぶども彼家の多衆なる輒く志を果
 以小玉らげ子孫も相統て永承元年の今小至り遂に上杉を斃して東列を統ふ
 初め上杉憲顕足利基氏小輔依りて列侯よりより斯小至り子孫相嗣と
 十二代百十九年小と竟に北條氏の爲に國を亡ふ。その時小至りて天下の大乱天
 下を維てび墜て有徳の士ありといふども、之を保全するに能くは關東の街とあり。

まづ二族及び家人松平久秀ハ逆威を畿内南海小震ハ織田信長ハ美濃尾張小出張今川義元ハ駿遠を徇武田信玄ハ甲信小安ヲ氏康開友八別を統依竹義重常陸小在る屢岩城近國を掠め華名盛隆會津を領し長尾景虎ハ越後小在る屢關東の動靜を窺ハ初愈義景ハ越前守で畠山の統ハ河内越前兩別小相分ニ陶全姜ハ防長を押領毛利元就ハ安藝小起里尼野晴久ハ出雲小在る隱伯石の之別を併せ大友宗麟ハ豐後小據新遠寺隆信ハ肥前小居る島津氏ハ薩摩を係つその除黨を樹兵を舊國郡を割據一邑軍を率ふりハ牧奉を小違わび海内大動乱せり

初て氏康下統の國府臺の戦ひ小見義弘義高父子を切崩し勲績を六開東治礼記及び諸書小顕然とるが小教賛せむ

武田信玄

人皇百七代 正親町院 天正元年四月辛
今歲三丙辰 追二百八十四年 成

武田信玄者初名晴信新羅三郎之後

也勇而用兵破義清長時而領其邑與

氏康信長相戰而爭其地世多稱其謀

策長尾輝虎其敵手也

俗説小武田信玄ハ曾我時政が再生之何小據て自ら死し其子ハ井沢蟠竜子ガ俗説辨小ハ其子ヲ載て其説を破り父信虎を逆ハ其子ハ其子の瑕とす其子ハ其子ヲ看る小至つ其子ハ其子ヲ看る小至つ其子ハ其子ヲ看る小至つ

鎮守府將軍頼義三
男新羅三郎義光ノ男
刑部三郎義清甲斐國
武田三任ス因テ氏トス
十七代孫
源信虎 左京大夫
享今治郡頼義堂
晴信 大膳大夫
信繁 左馬助
勝頼 四郎

長尾謙信

同帝天正六年三月卒
今安政三丙辰述二百七十九年成

長尾謙信者發兵于越後與武田

信玄相戰與北條相挑入鎌倉而

不能久保焉改氏上杉

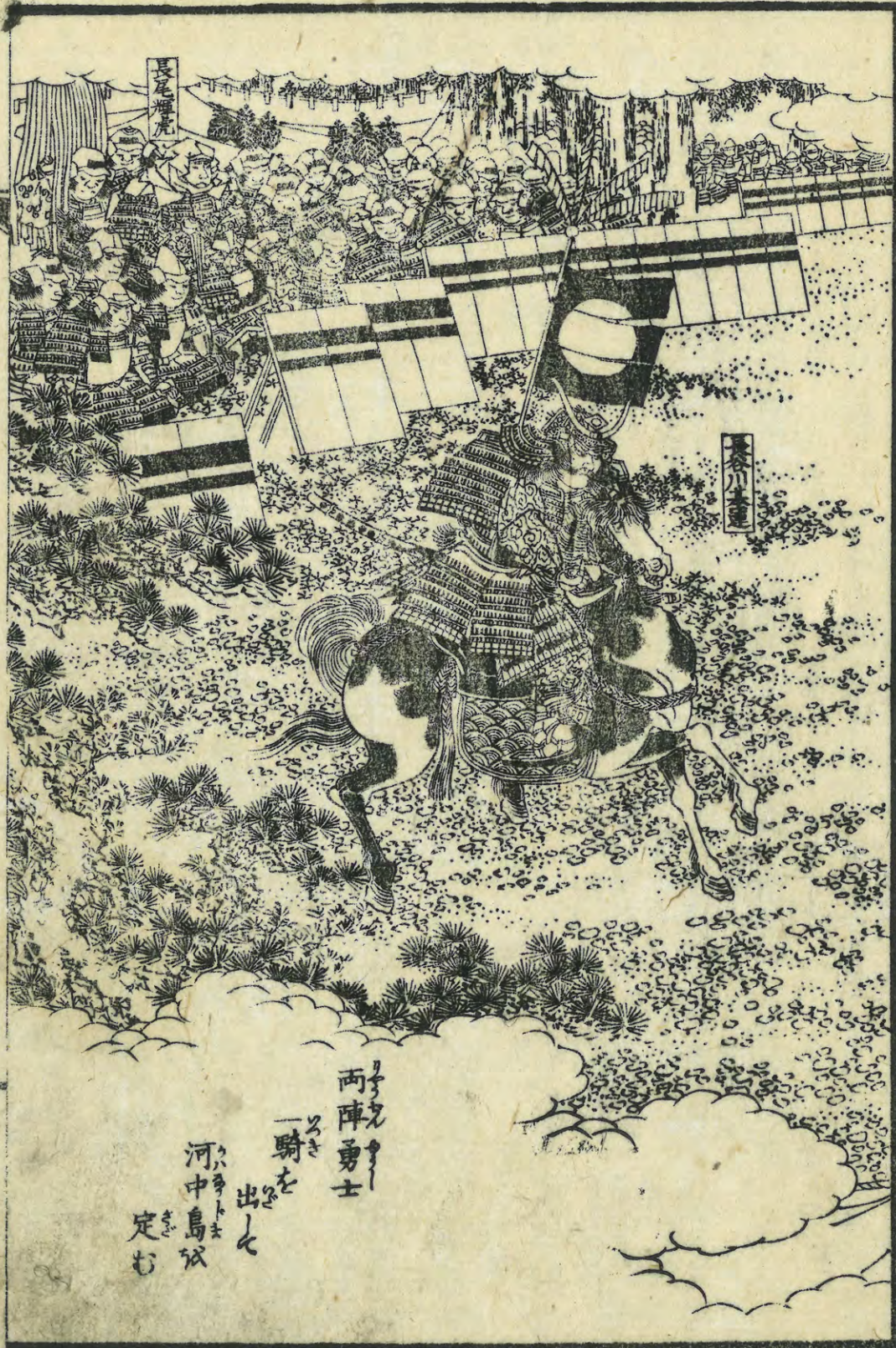
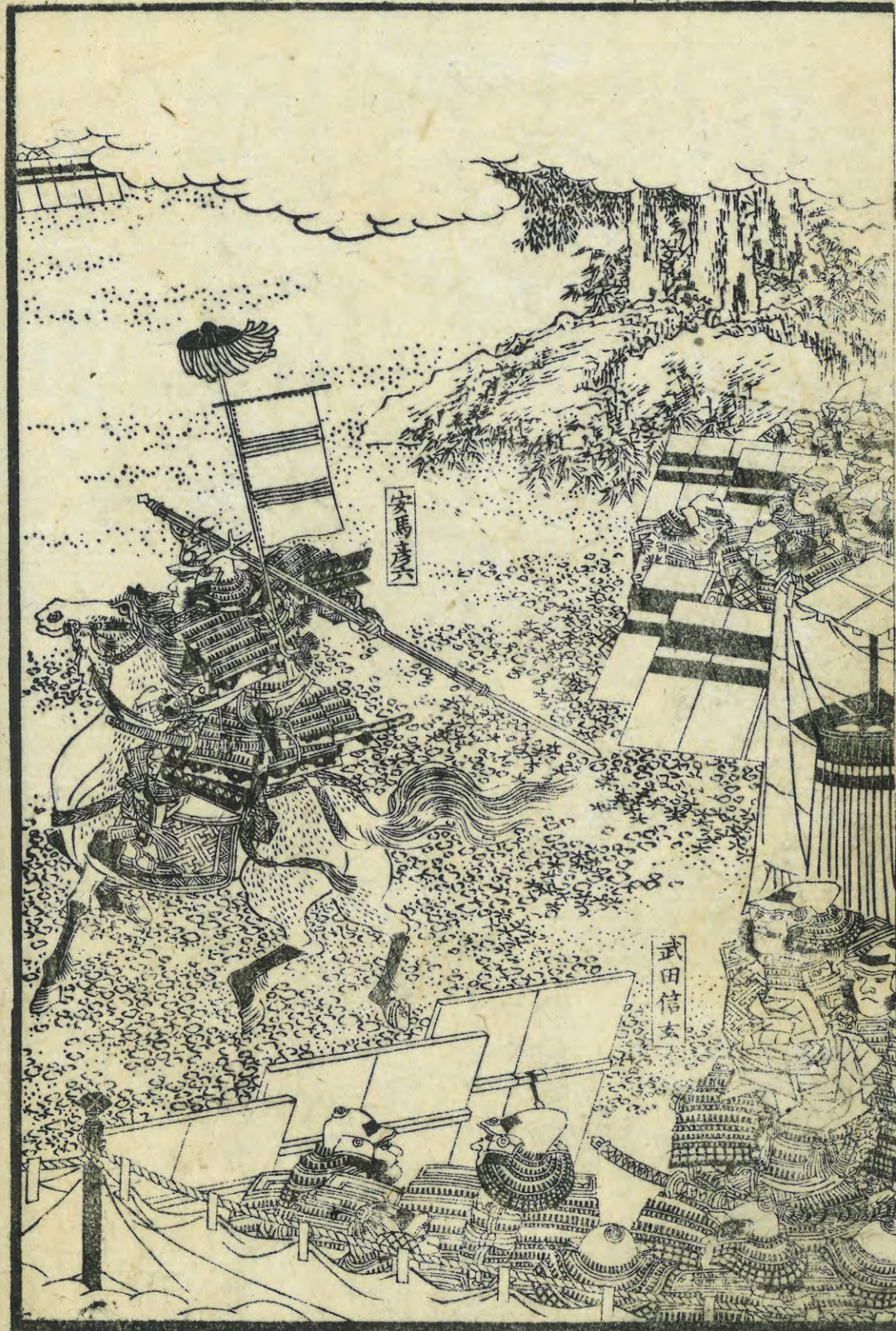
智勇兼備其才人馬皆所幼年小く本國を退くまき令津新衣湯と
いふ者まき傳う。米山越の絶頂小至り。そむた陣所ある後年兵城起し小
至る必る小陣せん。果て是より十一年後ら小陣と現城古志府内とる。
實小抄ハ一寸小く昇天の氣を食むといふ。是なる哉と傳小くり

國景	上総介
頼景	左二門佐
重景	信濃守
能景	信濃守
為景	六郎
輝虎	彈正大弼
法名謙信	

武田信玄

長尾謙信

この両將を併せ記さる。希の大書小もろえ。謙信ハ信玄の敵手とて記あり。
何を以て敵手とあり。村上義清武田家と累年陣盾小及び。終小信玄小うち負て
本城小還る。越後小到り。謙信を憑む。強信義清が頼を。得て是を拜む小
忍びざる。快く領掌。村上義清が為小軍と信濃へ。出ると。平後元て十二年
ある。ともとの戦ひ。互角。小く。雌雄を決せ。脱小。永禄。四年。秋九月。謙信。佐別小出
張。と。西條。山。陣。と。死。信玄。同。別。の。貝。津。小。あ。う。五。小。動。靜。を。窺。ひ。て。隈。小。残。ひ。を
挑む。と。山。本。道。鬼。が。諜。策。小。あり。正。兵。を。て。西。條。山。小。圍。り。奇。兵。を。て。河。中。小。為。小
軍。ハ。謙。信。炊。烟。の。を。察。し。密。小。河。中。小。あ。小。づ。ら。小。放。て。武。田。の。諜。計。忽。地。小。顛。倒。殆。雅
戦。と。なり。し。バ。甲。別。小。を。得。る。武。田。左。馬。助。信。繁。及。び。山。本。勘。今。入。道。道。鬼。初。鹿。野。源



五郎諸角豊後守其餘の豪士多く戦死。謙信既小信玄の旗本小切入て竟小大の
の争ひせとあり信玄危うく思ふを近江とをを阻て大將を令う以甲州の軍本
潰え敗走小及ふのと。彼西條小對ひる飯富真田以下の諸將一万二千の兵を率て並
みらへ討逐し戦後勢を突崩せり甲州方こそ小機を潰て奔雷の如く突て鬼を越後
勢大敗散礼を甲州勢潰るや應と追撃て首を切と二十餘級揮虎り得
猛しといふもこそ小對ひ戦ひて和同喜共清一を使人勵くして越後小隊をこき以
せ小信玄謙信川中島の大合戦と。近曾る事蹟を記し印刻するもの多くて人々
初まば愛小畧む初て後甲州の名は且信玄も熟思ふ小僅河内橋本郡の士小拘む
ひて十二年の甲州を空しく更小益を不返天下小大志を立んとする者初め
る多うべと必ひ定めて頃ハ永禄七年八月十日甲州の豪士安馬彦六を使して越後
の陣へひ送るる越ハ去る天文二十三年より今小至つて十二年を夜合戦を挑むと

又とも更小雌雄を決する時を佐小士卒を勞し且生民を害さずと。謙信が心小あつて
因て這回二人の勇士を以て組討を倣うめ其勝敗小從ひて且郡と貴方の有とあると。まこ
晴信が納るの差別をこめ決せんとなむこの後如何小いや。甲州方より罷り出る勇士
ハ則別人あつて言と安馬彦六越後の勇士と勝劣を較ぶ所といひ入けり謙信
安て信玄よりも禮さう。已も疾うその心あり越後バ明十百午の刻小どの勝劣を究む
と返答あつて甲州方大將晴信を始めとして出張りて陣を列ね越後方も謙信を始め
諸將河内橋本陣と。折々例の安馬彦六物の具爽小出きて白月毛の馬小乗り只一
騎餘くと謙信が陣小向ふ所小越後方より只一騎從容とて出來る小小差小兵
の武者あつてちも小さひる馬小乗らう。かく馬上少く大音あげこれハ越後出で謙信が家
老の斎藤下野守初信が家士長谷川典五右衛門基連あり。小兵あるととも音小あえり。其
方称る組討を以て雌雄を決せん但し小勝りありとも加勢助太刀小素より林本バ

兵を多しめ小戦を小發せんとし時小病悩暴小起り痛むと寝く五日あり。同月十三日
 去せり。行年四十九と多し。武田信玄、輝虎の弓矢を止め。且信長と好を通じ。
 是より遠遠之を界し。北條氏を驚えんとて。その間を窺ひ。永禄十一年甲辰を率ひ。後及
 八幡坂小陣を今川氏真、後遠の兵を備へて。その防を然まども。今川家の舊臣若氏真
 が倭臣、浦義鎮が。亦小惑はさきて直后と疎し。疎后を戮し。因て氏真と怒む者多
 く。敢て戦力を弱き者あり。甲を脱ぎ。旗を偃て。後府小降る。其の寡より。氏真奈何をもす。と
 あり。用章て。越川の墨小毒。後及の士信玄小降る。甲別の兵勝小衆ト。尋て越川と攻ん
 と。後及を極めて。北條氏のより援ん。とを慮ひ。浪津久能。して士卒を越ふ。果して北條
 氏康氏政大兵を率て。氏真を救ふ。信玄山條之。即兵衛小二十五百の兵と援け。後府を守
 らせ。躬ハ二万八千餘兵を以て。浪津小陣と北條小對し。互小守ると九十餘日。一戦小及。及
 双方帰國ハ

附て。今川氏國頼建武年中。封を被列。不受け。て小至つて二百二十餘年。十二世
 あり。封盡り。國史略を案ずる。氏真暗弱。あり。後を信し。且變后。之浦義鎮が
 勸め。よりと遊戯を事と。曾て。その四俗中元。毎小士女。縣販場を設け。市況
 あり。て。或ふ。僮俗小。こを盆踊と。の。氏真大。こを。ぬ。盛。ふ。こを。行。む。因
 て。國中。靡然。として。新様を出し。衣服。制度。小。美を飾り。奢。侈を極む。の。こ。以
 民間。耕作。を廢。を。示。の。こ。あ。り。一。容。小。の。踊。を。出。を。榮。と。士。の。窮。む。る
 者。小。至。て。武。小。甲。胃。鞍。馬。を。鬻。ぎ。その。費。小。給。む。あり。冬。小。至。つ。つ。明。て。止。む。毎。年
 斯。の。ゆ。く。ま。べ。心。の。家。長。等。ハ。こ。を。凍。む。と。屢。あ。と。氏。真。更。小。用。力。ぬ。の。こ。う
 却。て。こ。を。跡。と。遠。く。因。て。麾下。小。屬。す。る。庶。雄。多。く。難。と。畔。小。至。き。り。故。て
 以。て。甲。軍。の。勢。小。及。び。て。防。ぐ。兵。多。く。忽。地。小。國。を。亡。ふ。氏。真。い。ま。こ。若。年。と。る。と。死
 ぞ。の。父。義。元。書。を。作。り。氏。真。と。戒。め。く。若。就。小。成。長。て。い。ま。こ。幼。多。心。を。棄。バ。終。を

開リ約せしむ。又武内等々唐を今とて懐めざる。邦覆を宗滅びんと欲し。意と云ふ。竟小の言の如し。中井積善のいふ。今川氏先世已有庭訓語意。撰實今尚行于言俗。又加以義元氏規戒之切。寔有先見之明。而氏真惜然可嘆。爾古稱知子莫若父。猶信と云ふ。安小遊戯を好む人。君を戒む。小足りのある人。永祿十二年十二月。信玄再び兵を出し。駿河の九城を陷。今北條新三郎が守る處の蒲原の城を落し。又渠固く守る。降らば信玄降参りて以て之を取。新三郎死を未う。駿府を降し。身と相渡。是の諸城を壓して。武田の威風熾。天正元年。月小至。信長と相戦ふ。陣と別。蓬來寺小進む。武田信玄病發して。活せざる。暁。諸將を集めて。後事を託し。信玄の疾を以て。即勝頼の子信勝小房。勝頼を以て。後見し。し。且四政の文。終及。攻守の權を以て。信勝小房。終小房と云ふ。大抵還他肌骨。好不全紅粉。自風流。と。竟小卒を。歲辛丑。諸將。諸將。喪を發せ。病を称。國小。抵。密小。蓬來寺小。葬。といふ。

姓氏未詳

利政 斎藤山城守

義隆 右兵衛尉

其 喜平次

其 孫次郎

コノ西人兄 義隆

龍興 右門大夫

卒三代 僅三六年

ニシテ國ヲ亡ナラ

齋藤道三

同帝永祿七年被害
今安政三丙辰。年二百九十三。年。成

齋藤道三者初起。自微賤。領美濃國。

顯於世。其女嫁織田信長。

道三。と。の。城。列。西。東。の。人。多。家。極。め。て。貧。乏。け。し。ま。ず。常。小。油。を。賣。て。業。と。す。と。傍。秋。福。を。克。し。て。美。濃。小。赴。き。土。岐。の。家。元。長。井。藤。大。清。門。こ。れ。を。電。と。臣。と。あ。ひ。道。三。關。の。奇。才。あり。て。う。の。主。の。意。小。懐。ひ。重。く。登。庸。ら。る。小。及。び。の。主。長。井。大。義。と。の。地。を。篡。入。威。勢。漂。然。と。る。を。見。て。土。岐。も。も。と。証。を。加。へ。道。三。ま。ず。猛。威。小。募。り。ま。ず。土。岐。賴。隆。を。弑。し。て。終。小。濃。列。を。有。つ。小。至。利。候。の。員。小。加。り。る。戰。國。の。慣。な。る。と。嘆。び。ま。ず。と。あ。い。ん。

奇藤道三の詐

道三素より篡奪の逆罪ありといふことも。當時天下戦國なり。至て糾ひ人あり。張きて以て榮とあり。虎狼の行も世間多し。信長脱小藩國あり。渠が窺ひんと。怖し和睦とあり。女を連ふ。因て美濃尾張平均あり。然る小道三信長の動靜を看んと。必し使節を以て我富田の正徳寺あり。舅堦の禮を述んと。然る足下彼処小未金あり。我も出てとて。侯んと。懇小謂遣け。信長異後多承。瑞日下て。出張あり。道三の行装を看んと。必し武氏家小此で潜めて。信長が來るを俟つ。この日信長整て束の廣袖を著て馬小騎。その所異家あり。隨從の健士千五百人。赤馬の朱鍔五百。その長さ三間半。弓炮各五百挺。道三睜て大驚。初て正徳寺小入と等。一異所を改めて。道三宗謁ひ。交金畢。して信長を送。後小道三嘆。い。我子孫彼が門下小馬を獲。ぐ。べとのひけ。とある。ま。一視小信長乃ち美濃小入て。外父で見。時身小洞袖の浴衣。著。深て。驢大の陰

莖を畫く。道三の家老。ある。を。郊外小迎へ。望。を。發。き。異。之。使。を。遣。て。告。て。思。ふ。信長ハ郡俗の田舎漢あり。濫て。食。應。の。役。少。ハ。七。五。之。料。理。を。以。て。人。然。れ。ど。も。の。為。能。が。古。後。の。飲。食。小。應。ぜ。ん。農。家。廣。大。の。食。器。を。備。へ。然。る。と。告。う。け。り。就。り。て。信。長。

ハ。彼。封。内。小。入。と。奇。一。從。者。小。令。ど。衣。冠。を。正。し。入。て。道。三。小。獨。け。り。さ。小。放。て。道。三。始。め。家。人。等。ま。ま。大。小。驚。き。七。五。之。を。以。て。是。を。餐。ひ。これ。ハ。初。飲。食。の。古。後。多。う。道。三。嘆。ぞ。い。く。我。國。ハ。脱。小。塔。引。出。物。小。多。と。後。果。く。その。言。の。や。而。の。説。と。大。同。小。異。之。後。の。視。ハ。村。宗。具。が。著。り。所。の。老。人。難。非。小。載。る。を。掲。げ。出。せ。り。宗。具。ハ。一。小。專。角。と。号。し。小。祿。八。年。小。生。

是。寛。文。に。年。小。死。以。壽。百。歳。小。満。也。を。著。り。以。新。ハ。蓋。実。録。なり。道。三。篡。奪。を。以。て。美。濃。を。領。し。威。勢。開。東。小。冠。と。し。も。ち。罪。責。道。三。が。子。嫡。子。多。義。龍。を。跡。に。その。西。弟。の。中。と。ま。て。家。師。を。嗣。る。あ。ん。の。家。あり。義。龍。と。ま。て。妻。と。大。小。怒。り。則。ち。兩。人。を。害。し。辱。て。父。道。三。を。由。裁。し。その。國。を。奪。ひ。け。り。その。勝。敗。新。興。小。及。び。裁。于。あ。う。と。て。國。を。逐。は。し。中。國。小。

信長異體
美濃小入
泰山を
玩弄
を



按ふ小右衛門尉義龍の父弟を殺す年月究めて定るべきに永禄七年とのひ
 まつね 又八年との小通と美濃を奪ふとも天文八年とすも九年とせり蓋通が事蹟小
 むける家多し油を賣すも墨の印小銭を重き。その乳より滴て入る油一滴の溢
 るところ。その物稀代まで見てことと実の市とあり。その家忽地富となり。また大濃
 小のき飯名を松波丸九郎と称しけり。之間柄の義を著し。家隆くして措かざる竹の
 筒小柄て門小迷む。于時園主放鷹。小出通應者。着て竹筒の上小あり。家人等こと
 を更倒し松波怒る。家人を蹂躪。その力量武術を賞し。永井藤左衛門の養
 子とす。その父も土岐頼親を殺し。兵部大輔定頼小作。迎き世のふと。いともその傳
 世區とあり。その孰る是とぞかむ。

織田信長

同帝天正十年六月被執
 今安政三丙辰追二百七十五年二成

織田信長者姓平氏出自尾州取江州奉

源義昭以為將軍擊朝倉滅淺井令其

子信忠攻殺武田勝頼諸州歸其指揮

遂被明智殺

信秀	備後守	信長	正二位 右大臣	信忠	從三位	信雄	左衛門權中將	信孝	北畠中將	三法師	神戸三七
平親眞	織田權大夫	十七代孫									

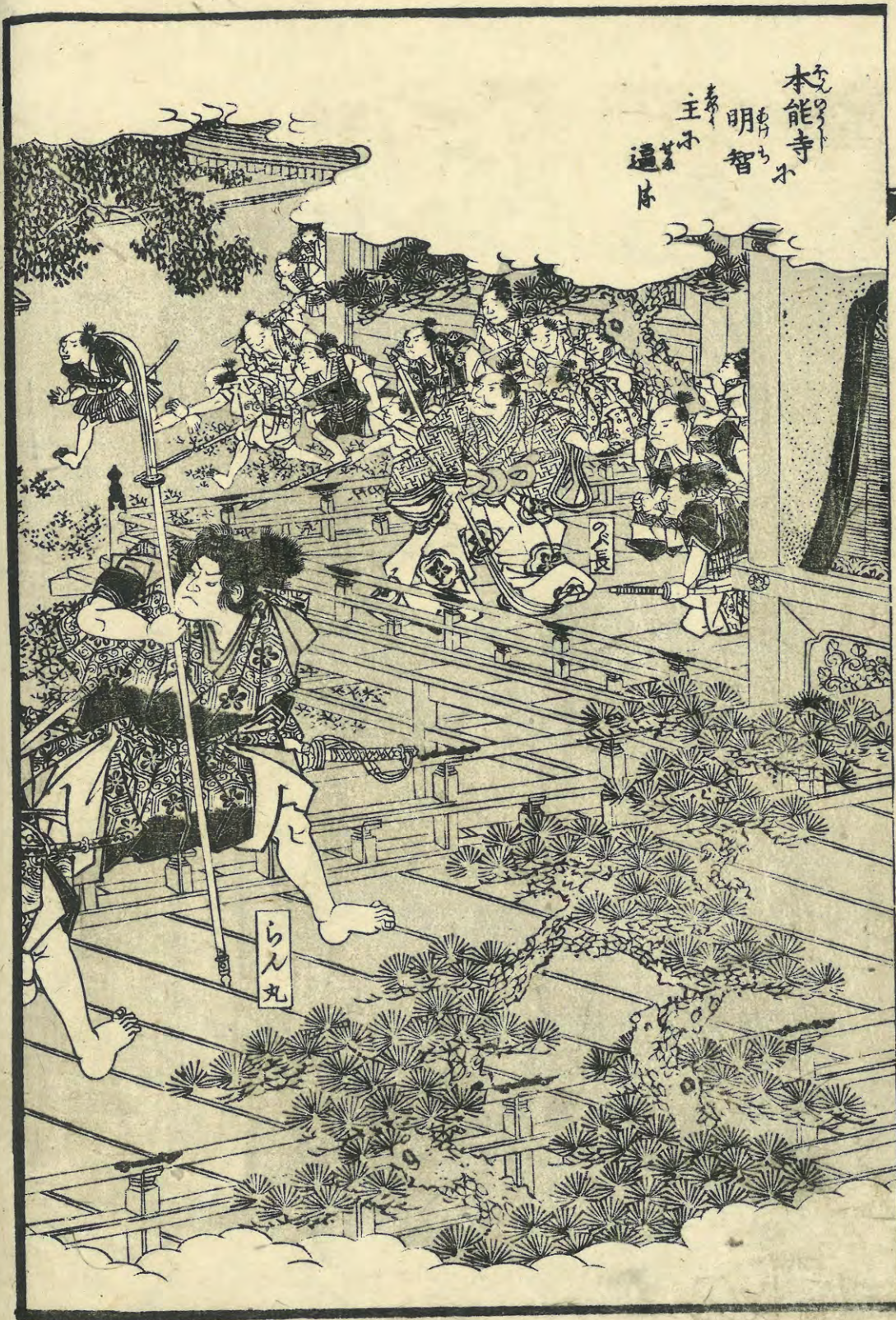
平親盛の三男清盛海外渡り。幼少なり。母を携へて淡路の郷に流る。子時
 然前織田の莊の神祇の幼少を養ひ。家を續して織田權太夫親眞とす。其子孫相
 続で織田小右衛門斯波氏にて小臣とあり。後尾張小移。信秀の親眞十七代の孫と云

百
卷
傳
三
論
卷
之
十
二

王堂集

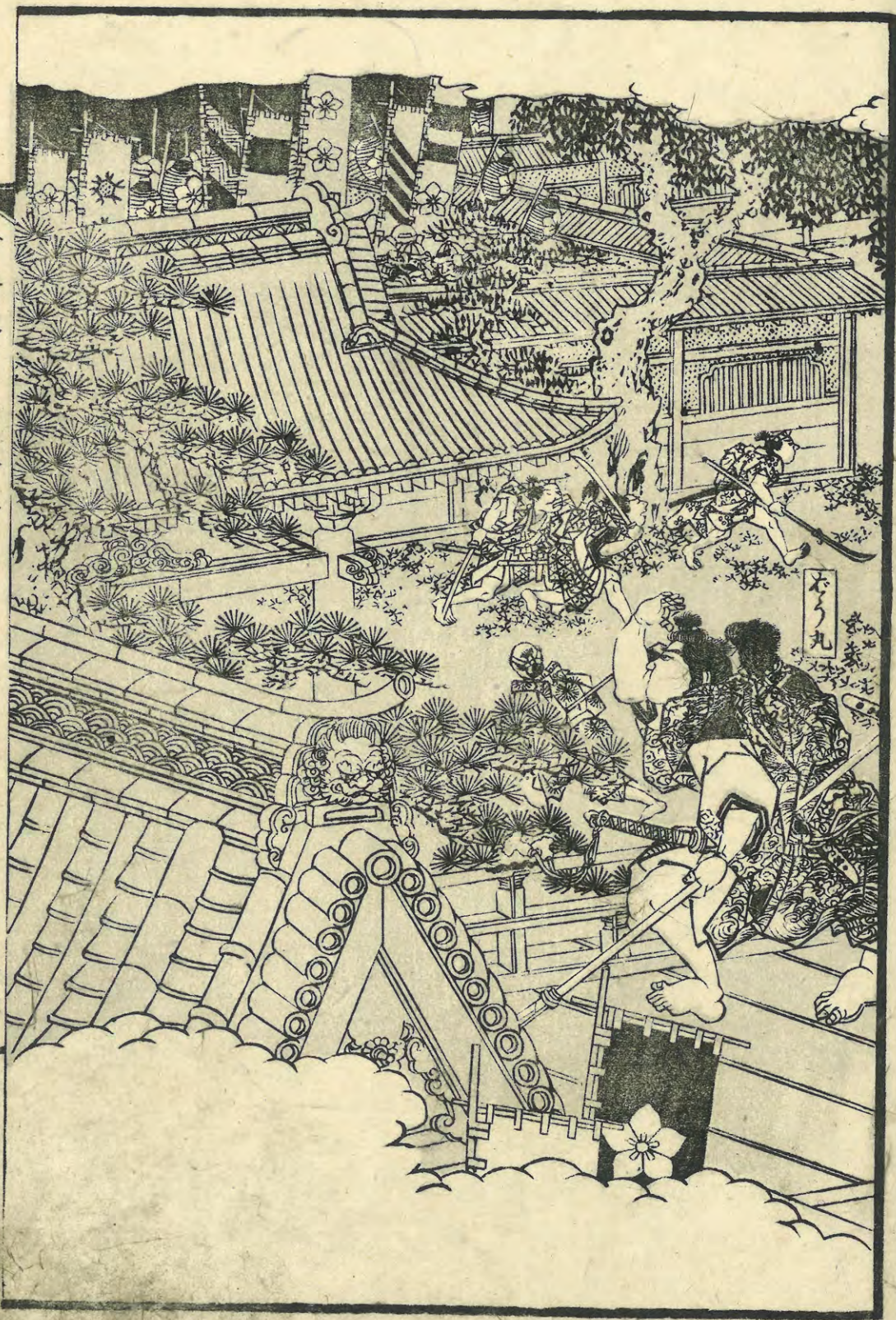
百將傳

本能寺
明智
主
通



百將傳一父記卷之十二

群王三藏本



らん丸

らん丸

百將傳一父記卷之十二

〇二十四

群王三藏本

討とす。是より信長の極威強大と。順に諸城を拔き。尾別一國を領す。至る。如く永
祿七年の及。美濃の國主。角藤右衛門大夫。新與を逐て美濃を領し。岐阜の城。移し
けり。さき尾濃の西別。武威を揮ひ。武田信玄と。因を結び。稍小近國を靡けんと。こ
永祿八年都。ぬ。ぬ。義繼。松永久通。將軍家。義輝を弑し。その弟。一條院の門。師。覺慶
鹿苑院。周昌をも。弑さん。と。その家臣。平田和泉守を遣ひ。乃ち平田鹿苑寺。小。周昌
を弑し。覺慶を。安て。米田を。波守と。し。醫師と。相談し。春日山を。踰て。及。小。奔り
依。木。義輝。小。憑て。還俗し。名を。義昭と。改め。兄の。教。多。及。松永を。誅し。將軍。職。成
嗣。ん。を。憑。こ。小。折。節。義輝。その。家。の。長。臣。等。と。故。あり。國。内。靜。多。さ。す。其。の。緯。を。果
一。ご。割。義輝。の。子。義。弼。之。好。と。通。し。義。昭。を。殺。さん。と。圖。ふ。小。より。こ。小。足。を。注。め。か。こ。
江。別。を。出。て。若。使。小。到。て。武。田。義。統。小。依。け。ば。義。統。悦。び。て。奉。還。を。然。き。ど。も。其。の。國。小。に。志
て。大。事。を。策。す。小。力。足。ら。ば。故。小。と。越。前。小。入。り。初。倉。義。景。を。憑。ま。し。け。り。義。景。を。味。略

なり。こ。小。於。て。細。川。孫。孝。上。野。清。信。を。伶。り。と。美。濃。小。到。て。信。長。小。の。る。を。憑。ま。り。信。長
謹。て。領。兼。し。と。武。士。の。面。目。なり。何。ぞ。辞。ま。さ。の。ひ。き。早。く。大。旗。を。出。國。小。寄。せ。り。と。不。破
河。守。を。兩。使。小。副。て。義。昭。を。美。濃。小。迎。へ。且。浅。井。備。前。守。長。政。路。次。り。從。て。同。行。せ。り
む。れ。信。長。の。妹。塔。多。故。あり。周。て。七。月。十。五。日。義。昭。美。濃。小。到。て。正。寺。小。入。り。信。長。太。刀。馬
鎧。沈。香。縋。絹。鳥。目。等。を。献。し。義。昭。小。拜。謁。す。供。奉。の。士。小。も。多。く。贈。物。あり。か。こ。義。昭。孫
孝。清。信。を。と。こ。ね。が。暴。逆。を。誅。し。再。び。京。小。敵。る。を。得。ば。亡。兄。の。讎。を。復。さ。る。の。ふ。あ。り
む。武。昭。の。家。と。興。ま。さ。の。一。奉。卿。が。力。の。と。信。長。欣。然。と。對。せ。り。徹。は。不。肖。の。才。を。以。て。
この。大。事。を。奉。承。し。数。邑。の。卒。を。以。て。猛。敵。を。討。んと。鄒。分。を。計。ら。る。小。似。う。と。り。も。君。令
辞。ま。り。小。折。り。且。君。の。長。運。小。乗。り。その。驍。虎。小。附。て。凶。賊。を。誅。ま。り。そ。は。天。道。ハ。不。義。を。惡。し
て。德。義。小。親。む。と。承。り。何。ぞ。神。明。も。義。軍。と。資。け。て。暴。賊。を。討。せ。ざ。ん。や。さ。さ。は。將。軍。家。の
再。興。ハ。建。て。廻。ら。ま。り。と。謂。て。益。酒。を。献。じ。り。け。り。義。昭。大。小。悦。ぶ。と。い。へ。か。こ。永。祿。十。一。年

八月、信長岐阜に進發し、比叵山に至り、使を馳せ、依り本義親小説て、義昭小従へんと。
この使者之度、小及ふまで、竟小義親従ひ、信長怒て、岐阜小降し、領土の兵を整へ、義親
本城、觀音寺と攻んとす。然る小比叵山の城、家人守り、箕作の城、武部吉田、両士とれを守り、
小及ふ。信長地圖を披き、熟慮し、まづ箕作を攻る小着比と、比叵山、小押を盡て、久庭小箕作
の壘を抜く。初め、義親あるは、義親と謀り、比叵山の城を築き、劉強の兵士を募り、信長來つて
まづ是を攻ん、然る箕作、觀音寺より、兵を出て、後を襲んとす。信長、其の疎慮を察し、直小箕
作を援け、比叵山の方、攻めて、忽ち小没落せり。義親父子、大小忍び、援資の兩城、小陥り、觀
音寺の孤壘、棄る憾へんと。城を棄て、出奔し、信長兵を進め、諸城を攻る小國内、凡小應下降る。
其の脱小十八城、小及ふ、周て、比叵山、平らぐ。信長、觀音寺の城、小移す。不破河内守、遷きて、義
昭を逐へけり。義昭喜びて、守山小到り。信長の功、早きを賞む。同年九月廿八日、信長、義昭を携
えて、京師小入る。義昭、清水寺。信長、東福寺小居り。菅野九右衛門を、軍勢の根柢を制

禁し、以て、信長、京師小入るとき、其の威風、安堵へ、定めて、暴行のあつんを、忍び、資材、雜具を、運
び、老を扶けて、逃亡する者多し。信長、入て、制令、法肅、敢て、秋毫、も、犯さず。都下、大小、悦び
て、まゝ、家々、と、囃しけり。夫より、信長、攝々、小登向、芥川の城を、攻む。城主、細川六郎三好、日向守。
城を、棄て、退去し、凡小應、おと、後、固右衛門、清水の城、及び、池田、流渡守、池田の城、頭を、叩て
降参し、凡小放り。信長の威勢、益振ひて、畿内、平らぎ。松永、秀政、下、倉降る。信長、其の地を、指
士、小興、洛小降し、清水寺小居り。義昭、六條の本國寺小居り、以て、洛中、洛外の制法、を
定む。尋て、義昭を、奏し、請て、征夷、大將軍の職、小任じ。是利、十五代の將軍と、多し。其の功、小周て
從五位下小叙し、彈正忠小任む。義昭、信長、が、武功を、賞し、管領と、なさんと。相廷、強と、副
將軍と、なさんと。信長、と、と、拜禪と、兩、あつ、受け、まづ、今日の奉、ハ、將軍の長、運、少く、古、同く
為、小承、比と、然る、比、畿内、の地を、據び、取と、まこと、と、も、辭退、を、て、界と、大、深、と、小守、護、を、盡、こ
辭し、と、破、阜へ、歸ら、まじけり。かく、その翌、十二年、正月、に、ぬ、山城、入、道、笑、岩、同、下、野、守、山、成、立、親

按ふ中井積善のことと賛するもの云、當時學術湮晦、歐陽氏所謂八尺之
夫勇蓋三軍而見佛則拜者、天下皆是也。自非確然弗畏如織
田氏者、其孰能與於是。君子對非采之可矣。と云々、實確論
也。然るに、信玄嘗て信長義昭と和親し、義軍と稱し、尾羽小勃起し、兵馬の權を要するを妨げんと密
小間を放て、信長と義昭と謀り、義昭暗害をせしむ。後を信じて松原道友、足利義昭
弟門を併し、信玄と謀りて、近年信長權威小衰、我功は誇つて公義は蔑み、義昭
舊功を以て宥むといふもの、あきつて許さず、恐るるに、頼公公大義を執て、礼賊を正せと
なり。信玄稍從ひて、然れども使者の形を公推小募りて、先發之因て、義昭が傾廢を慮
ることを肯ひて、辭して、臣山頂王衣、而て大事を任下、信伐て、主の器はあはれ、曾て父上
杉景虎、向小君命、小應むるや、彼天下の豪士、あて、任實小受、すべし。夫勇、外を征し、
修僧内小禱伏するもの、古昔の武法、臣幸小今、信使、冠賊平均の法を修せん、こと固

辭と、信と還り、なり。天正元年三月、義昭信玄小黨一、柵を石山、堅田小築て、信長小教
せん、信長怒つて、柴田勝家、丹羽長秀、明智光秀、等小、こと攻め圍り、石山降し、
堅田小陥し、首之、而、除級を、信長乃、大兵を率、小、入て、義昭を圍む、義昭防守
まると、能く、和を乞ふと、頼公、信長憐れ、こと、小應、不、攻、早小、降、信長秀、附小、命、大、聲
除、腹、を、達、し、め、義昭、他、日、の、不、虞、小、備、果、と、同年七月、小、至、義昭、宇治、の、橋、の、邊、小、接
て、再び、信長小、教、し、けり、信長、又、兵を率、し、以、信和、小、到、信和、遠、る、所、の、大、恥、小、蒙、て、故、本、小
赴、き、火を、洛、を、小、放、ち、進、んで、京、小、入、り、二、條、の、所、を、圍、し、けり、因、て、二、條、を、守、る、處、の、日、野、大、助、言
高、倉、守、相、伊、勢、之、淵、等、を、降、し、す、より、信長、旗、の、邊、を、攻、む、義昭、防、禦、ま、と、結、び、普
賢、寺、小、奔、つ、て、罪、を、請、ふ、信長、こと、殺、す、小、忍、び、て、依、久、間、信、盛、本、下、秀、吉、三、人、小、命、を、殺、し、
む、又、首、を、受、て、彼、京、小、到、り、義昭、を、く、希、別、の、希、別、の、城、小、蟄、居、せ、む、と、小、於、是、足、利、氏、子、代、
り、て、祀、絶、す、是、より、信長、北、國、を、攻、め、朝、倉、義、景、淡、井、長、政、を、滅、び、失、小、けり、夫、より、河、別、の、二

怒り。その威勢。天正三年十月信長上洛。推大納言小任。右近衛大将を兼ね。信忠秋田城。小任。同十二月。清て功臣の姓氏を改む。所謂塙九郎。左衛門。河原備中守。等。築田。大太。等。別喜。近。改。丹羽長秀。惟任。等。明智。等。惟任。は。河原典兵衛。肥後守。羽柴藤吉。筑前守。武井夕菴。三位。法印。小叙。友。等。宮内卿。法印。と。氏の類。同。年。近江の。壺。小。城。を。築。て。攻。草。う。移。る。正。三。位。小。叙。内。府。小。任。す。の。年。又。月。大。坂。小。役。あり。同。五。年。紀。別。を。信。長。同。十。月。松。永。久。秀。信。貴。の。城。小。叛。を。見。信。忠。團。を。是。と。誅。す。同。六。年。信。長。正。三。位。小。叙。同。十。年。春。二。月。信。長。親。將。て。甲。別。の。武。田。勝。頼。を。攻。む。勝。頼。敗。を。天。目。山。と。て。竟。小。自。盡。う。け。ば。甲。別。悉。く。信。長。小。屬。に。按。ふ。武。田。氏。の。元。祖。義。清。甲。別。小。封。を。受。う。り。さ。ふ。玉。つ。て。系。嗣。十。七。世。凡。四。百。六。十。餘。年。あり。國。滅。び。祀。終。る。

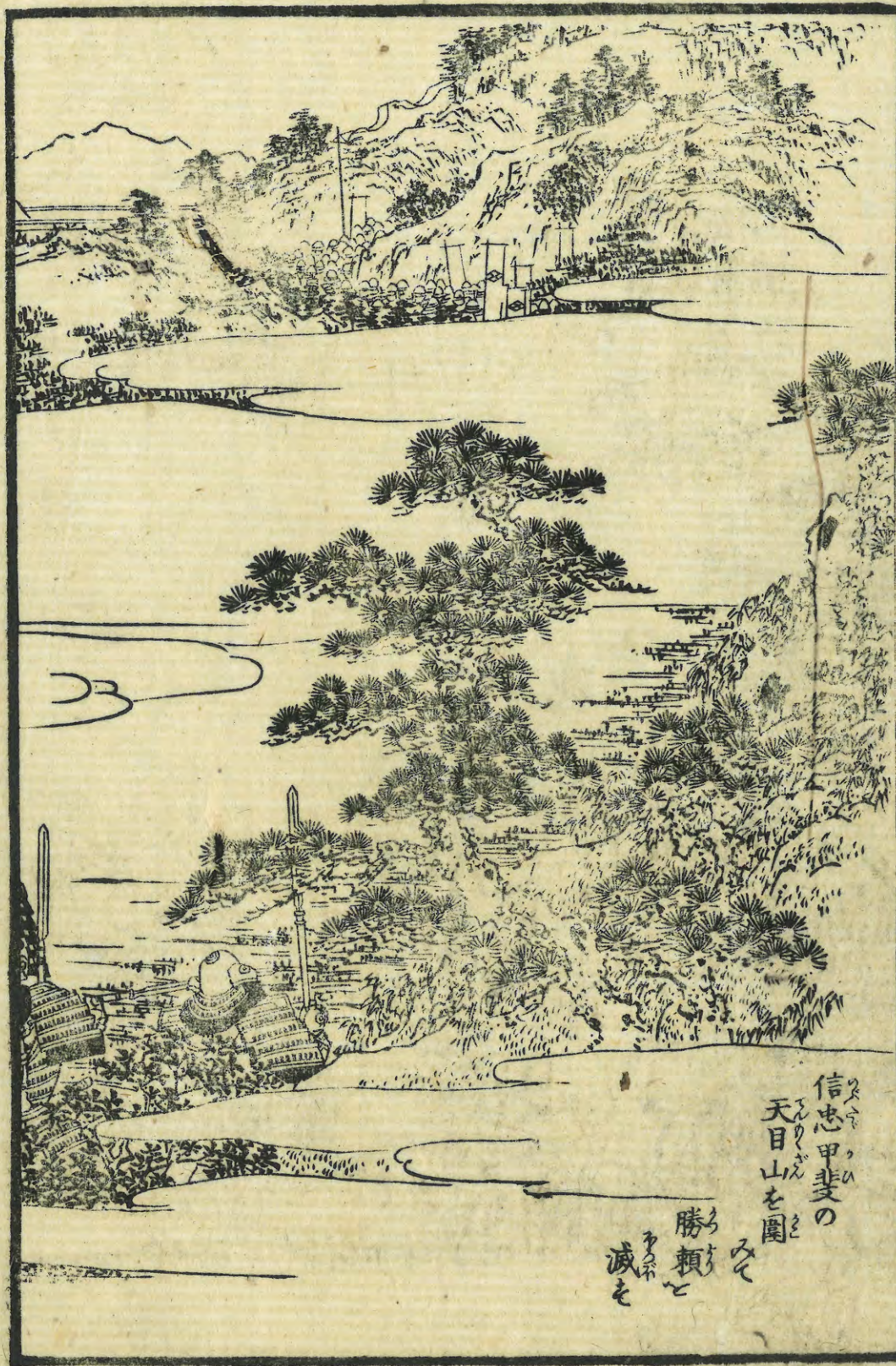
別。小。建。世。毛利氏親。來。る。機。令。失。ふ。う。び。逆。小。援。兵。を。出。す。と。信。長。書。を。得。て。大。喜。び。我。親。は。き。一。舉。を。と。り。西。陞。と。す。う。事。あり。と。令。を。下。す。て。畿。甸。の。諸。侯。亦。國。小。版。で。備。前。の。必。に。令。せ。よ。と。明。智。光。秀。と。て。先。鋒。と。す。む。是。より。向。光。秀。小。賓。客。郷。餐。應。の。と。令。び。固。く。光。秀。善。美。と。竭。し。黄。令。を。抛。て。畧。玩。を。索。む。然。る。小。果。さ。び。く。の。令。あり。翻。覆。何。ぞ。と。小。到。る。と。の。畧。財。を。湖。小。没。下。大。小。怒。て。丹。波。小。弟。で。主。小。叛。く。の。意。と。決。て。武。田。傳。ふ。郡。波。和。泉。守。角。藤。内。藏。助。と。小。於。て。信。長。が。意。小。懷。び。故。小。光。秀。を。召。て。建。責。し。自。光。秀。が。頭。を。打。と。三。小。至。る。を。見。光。秀。悲。む。固。く。い。く。叛。逆。の。心。成。決。と。る。と。も。い。う。が。と。光。秀。五。月。廿。六。日。龜。山。の。城。小。入。り。廿。七。日。屯。宿。山。小。到。り。折。獲。の。と。あり。と。謂。て。西。の。坊。小。一。宿。一。廿。八。日。紹。巴。等。と。振。て。連。飲。の。會。を。催。せ。り。于。時。光。秀。率。示。う。て。い。く。か。林。寺。の。深。き。教。堂。と。す。と。標。を。喫。ふ。小。及。び。其。の。色。葉。を。脱。き。小。及。び。其。の。人。大。小。不。審。め。り。脱。小。と。龜。山。小。歸。り。廿。九。日。織。田。信。長。近。習。僅。小。百。五。十。を。得。て。東。山。小。登。り。林。寺。小。在。り。

織田信忠の跡

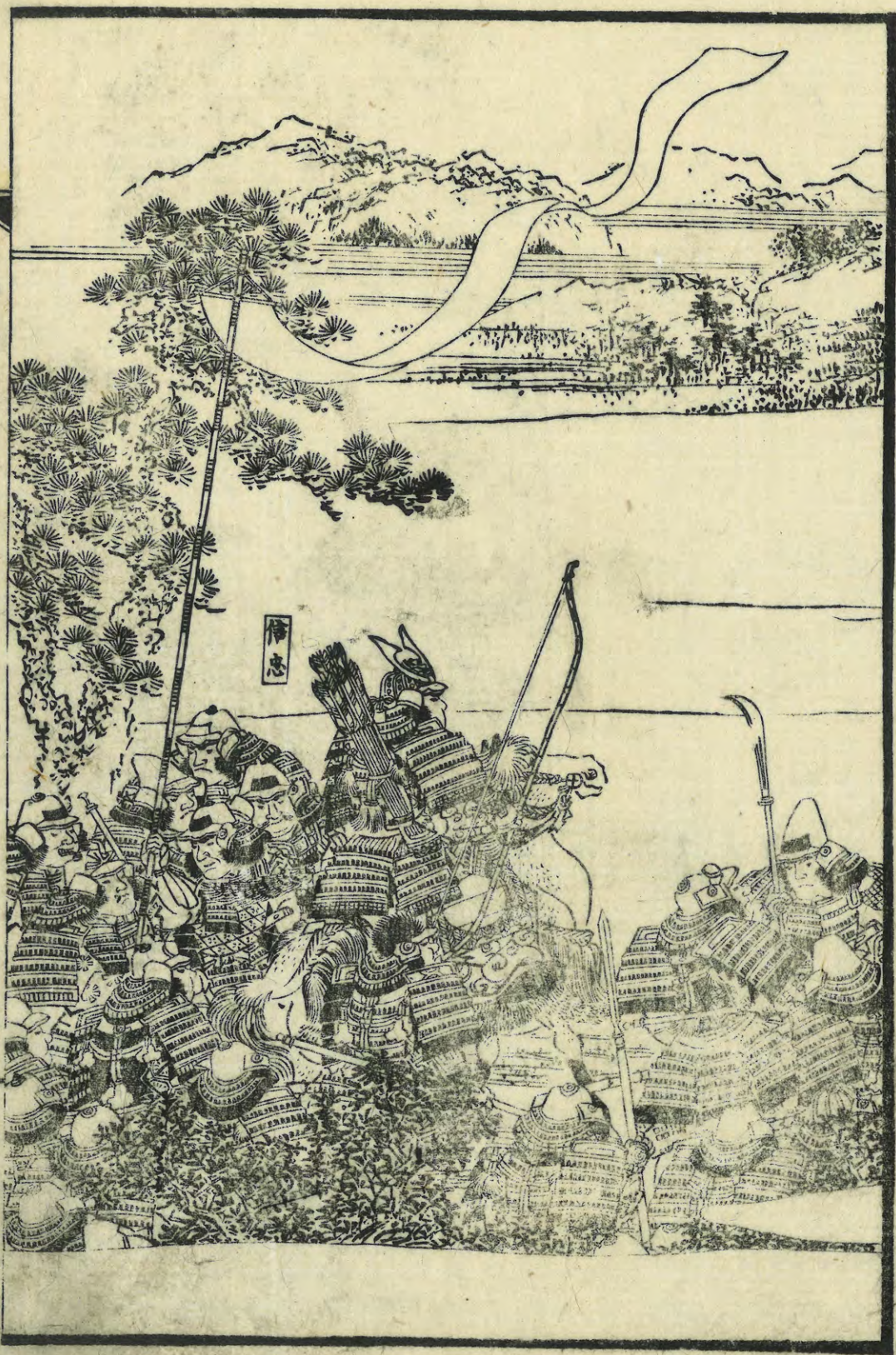
信長の傳中、小姓と偽り功を賞せり。元龜二年秋七月、信忠初めて禮を著し、釋名奇妙
清曹司と稱さる。その時、津井備前守長政と代んが為、初めて津井郡小出火と小谷の邊に
放ち、敵首二百餘級を降し。とて合戦の事始め、天正二年二月、信長安土小徙る
小及び。信忠、岐阜の城小居る。かくて天正五年十月、松永久秀、信長を深く怒む。故めて志貴
の城小遁れ、津井の邊へ入り、日比、則ち信忠小兵と援け、とて聲あむ。時、松水の臺
津、元石氏、森氏の一族河内小起る。元石の城小據る。信長、彼を長尾兵部大膳、明智目向守筒
井、順慶、お小命をさして攻む。長尾の三共一郎。于時、生年十五、米三男、順次郎十
四、米先登、とて攻む。諸兵、少年小勵まき。と、戦附、急小釋し。城兵防ぎ、戦ひ
かく。海光、名自殺し、城隔る。かくて久秀、使を馳て、難波孫一郎小援兵を乞ふ。その使、歸て、佐久
間、信盛、傳小入る。信盛、捕て、信忠小言ひ。信忠、大に歡びて、兵數百人を難波、よの援兵の

為と城小入る。城兵、曉らば、城門を開き。おの兵、深く入る。比及、信忠、諸軍を進めて、攻む。
偽の兵、と小應じ。橋、役所、火を掛け、城中、大に群易し。討て、者、收め、おと久秀
を、とて、殿主小登る。信忠、迎て、降し、赦え、然るに、門を小鎖し、と久秀、とてを顧て、骨と
さるとも、信長小獨せ。と、その日、來愛さる所の平御珠の金と、うち破り、火を殿主小縱つ。
自殺を伴ひ、冷ハ海とす。信長、懇望あふ。と、紀後小故の玩弄と、とるんを慮ひて、初ハ
せり。と、と小移、別伊丹の城主、荒木、枘津守村重ハ、信長小叛きて、城小籠り。信長、官
内卿、法印、友閑、明智、光秀、を、とて、和好を説む。村重、稍從ん、と、從者、とて小應ぜ
ば、とて、一旦、敵小遣と、いふとも、終て、と虎と、と能く、如く、兵起さん、いと村重、逆小叛く。と、信
長、躬兵を率ひ、撰別小到り。山崎小陣、信忠、天神の馬場小屯る。と、高槻の城主、高木、右近
荒木小黨と、とて拒ぐ。と、小右近ハ、耶麻呂と、信忠、困て、被宋の長、陣、休、大連と、とて、懇
小右近と、諭を、右近、忽ち、地心と、愛と、質と、款と、信長小獨と、信長、厚く、右近と、賞し、其月

信長傳



信忠甲斐の
天目山を圍
み
勝頼
を
滅
す



信忠

郡を授く。曾て信長附城を築き、淡本伊丹の両城を攻む。信忠進んで見陽野に至り、火を
兵陣の香を放ち、伊丹を攻むと急ぎ、守を固めて終に援に國を諸將を附城と守
る。信長と共小安未降より、かゝる翌天正七年、荒本村重太坂の先、佐小援ひを索る。密
小伊丹と密に危が請ふ。蒲川一益、諸慮を以て伊丹の城を陥落、以時城兵の妻を百千とこれ
と捕て、尼ヶ崎に到りて七ヶ松の礮小、城兵を見せむ。然、離れ嘆き、夫より天正十年、小至
る。木曾義昌、勝頼小叛、作義昌ハ義仲の後、信玄威を近國に振ふ。木曾和乞て信
長に塔とる。然、小勝頼家、跡で威勢目と小衰ふ。且、謀は屋至る。因、義昌これと謀と
信長小通せん。信忠小降を乞ふ。信忠悦び、信長小告ぐ。信長の如く、木曾ハ險阻之者、未小
欺る。と、險阻小困る。情と乞ふ。故、義昌及ハ家入等、質と納て、約と固じ、後、兵
と出で、信忠領事をも、濃別の人、苗本之兵衛、小令下。木曾及ハ家入等、質と板、因、信
忠兵を催と。千村左京人、信別の、正と和、甲別小到りて、勝頼小告ぐ。勝頼發さ、且怒る。左馬助

信豊と仁科五郎信盛、大々搦きの將とて、木曾を誅戮せん。と、然れども、攻て克、勝頼、彼て
船出、木曾を討んと、兵を整へ、國の源、初小屯。今、後を、木曾を攻む。義昌、大兵の到るを、
信長小援兵を請ふ。因、信忠兵を率ひ、木曾に小發向。信長、七ヶ松小屯。伊素に小面ひけり。
加、北條氏政、二方、勢を率、東に小陣と、信忠進んで、信別小入と。下條、伊素守、守る所、
伊家の城、忽、地陷る。松尾の城主、小笠原信嶺、も、降小。因、信別、大半平らぐ。信忠、因、平八と。
森脇、花を、先鋒と。信、信別の、救城を、援く。木曾、義昌及ハ苗本之兵衛、今、後、陣を、進發。
救を、斬て、信忠小款と。信忠、木曾を、賞。義昌、小感、快を、興ふ。尋、信忠、飯田小到りて、道、通、軒
伝、細守る。然、大、橋の、城、戦ひと、通れ。信忠、陣を、大、橋小移。河尻を、と、成ら、各、入、進
んで、飯、橋小赴く。信別、甲別、の、兵、大、小、恐、懼、降る。者、いと、多。然、且、由、田、勝、頼、授、陣、防、小在て
衆を、扇、す。と、挑、と、戦、んと、時、小、穴、山、梅、雪、ハ、信、玄、の、塔、小、と、の、親、と、原、より、小、勝、頼、が、約
小、背、く。怒、る。妻、を、俱、と、之、別、小、之。勝、頼、受て、木、曾、發、陣、防、を、と、新、府、小、入、信、忠、進、て

君王堂藏板

家系出自未詳
傳ヘテ云清和源氏
ナリ斯波武村ノイ
殘ニシテ元ハ越後ニ
住セリ中頃織田家
ニ仕ヘ族トイヘドモ
家臣トナリテ美濃
ニ来ルト云云父祖姓
氏未考

君王堂鼎木

下并作一三言卷之十三

君王堂鼎木

下并作一三言卷之十三



阿方殿



小谷の方

勝家

阿初君

阿方君

越前北の
勝家
死を
宛めて
家族と
宴を

小友也。因信孝。信孝。秀吉。和平。を乞ふ。秀吉。拒む。乃。和。ぬ。兵。を。返。し。勝。家。北。に。在。て。こ。こ。に。来。今。こ。こ。に。来。せ。ん。必。後。の。殃。わ。ん。丹。羽。長。秀。小。治。せ。む。長。秀。素。より。秀。吉。と。爲。擔。以。因。て。の。回。報。具。る。比。秀。吉。威。日。小。熾。小。月。小。盛。る。比。勝。家。の。い。こ。ま。に。娘。こ。永。雪。の。堆。積。小。う。年。あ。ま。と。成。滿。る。を。怒。り。中。太。阿。苦。む。滝。川。一。益。柴。田。小。流。き。ま。う。秀。吉。を。欺。き。て。春。曉。雪。消。を。俟。小。如。と。使。を。遣。て。秀。吉。小。の。い。や。う。信。長。の。夜。年。を。竟。て。勝。家。秀。吉。と。又。て。磨。世。の。咽。を。免。ま。と。ま。う。心。を。改。め。て。秀。吉。と。典。幼。君。を。翼。ん。と。秀。吉。以。て。柴。田。小。熾。田。の。元。臣。之。率。う。その。言。不。從。と。ん。則。使。節。を。遣。て。こ。こ。を。食。然。希。小。歸。ら。む。勝。家。以。て。欺。き。満。う。と。心。中。太。不。然。て。然。小。秀。吉。蜂。須。賀。及。び。木。村。集。人。を。振。て。の。く。の。度。勝。家。和。親。の。と。こ。る。悉。く。偽。珠。之。我。意。情。を。窺。ひ。て。事。り。政。ん。と。欲。ま。う。吾。々。こ。こ。を。棄。し。う。何。ぞ。来。る。小。欺。ま。ん。や。と。兵。を。引。て。長。溪。小。到。り。柴。田。信。賢。守。勝。豊。守。守。所。の。郷。園。を。放。火。し。且。その。名。は。な。ら。ば。我。小。降。ら。う。め。よ。と。う。家。は。皆。應。て。勝。豊。小。告。勝。豊。降。て。こ。こ。不。降。る

傳。小。勝。豊。ハ。勝。家。の。養。子。と。後。勝。家。の。甥。と。依。久。同。盛。改。小。如。賀。の。二。郡。與。之。愛。勝。豊。小。邁。を。見。て。勝。豊。平。生。小。ま。を。嫉。む。盛。改。威。縮。勝。豊。を。凌。ぐ。一。年。元。之。式。小。於。て。盛。改。部。て。面。を。執。勝。豊。押。へ。こ。こ。を。奪。ふ。是。より。勝。家。公。恨。と。盛。改。を。惡。む。小。う。今。初。の。如。し。と。ん

明。は。天。平。一。年。秀。吉。兵。北。別。小。出。ん。と。然。ま。ど。の。雪。の。も。消。さ。ま。う。勢。別。の。滝。川。を。撃。て。勝。家。一。臂。一。斷。と。逆。に。草。津。小。諸。軍。を。會。し。惣。勢。合。せ。七。万。餘。人。之。勝。小。分。て。進。む。戦。ふ。滝。川。一。益。柴。田。小。盛。く。こ。こ。小。對。と。と。独。以。夜。小。果。と。發。ん。と。秀。吉。衆。を。備。て。迎。く。因。て。の。陣。計。違。ひ。滝。川。義。太。夫。の。ま。ま。と。ま。う。小。う。勢。別。大。略。衆。均。と。未。り。秀。吉。勝。家。を。攻。ん。と。同。年。月。月。兵。を。進。め。志。洙。が。嶽。の。を。小。到。り。勝。家。依。久。同。盛。改。小。三。万。人。を。授。け。對。し。む。于。時。鐵。田。七。信。孝。花。田。の。約。を。受。じ。盛。改。小。黨。と。受。秀。吉。兵。を。率。て。大。排。小。到。り。信。孝。を。攻。小。及。び。盛。改。ま。を。救。ん。と。勝。家。公。命。を。受。て。中。川。清。秀。が。陣。を。破。り。清。秀。小。命。を。授。て。戦。ひ。も。衆。衆。終。び。と。小。討。死。と。秀。吉。未。の。急。る。と

天守之諸士守るを自あつて志深嶽柳瀬の志小却。盛政二万六千を率て志深高の嶺
 小陣に陣し勝政字を率い援んと欲まきども。秀吉が大兵孫を隔らして援ふと欲し時小秀
 吉軍を進め、後市松以下の勇士連を援て致し、柳瀬の七本連を人々を殺れり。
 小秀は伏し、間の軍兵敗走し、柴田勝政戦ひ死。勝家弟秀吉不相あつて戦ひ、兵
 僅小字あり。衆寡更小陣し、家には毛受勝助の者は、練めて北の莊小退り、勝家と
 相果て、小死に勝家道まで本城小入り、其妻小告てい。子ハ信長の妹之秀吉必あも害
 加へ城を道と。夫人泣いて、肯て去秋夜草とて、箕帚と看が家小執り、今看と
 此小死に、妻を再死辱を受ん。因て勝家宴を設け、酒を執り、是を傾け、人間
 の事竟、あといふ。時敵軍城を援く。勝家中村文治を命じて、今措け、終北の莊小自殺を
 其妻の女を、久保永新、奥村九郎次郎と副て、城中をさし、二女を果後小綾殿と、後殿と謂
 て、秀吉の妻とあつ。秀頼の生母とさる。

豊臣秀吉

人皇百八代 後陽成院慶長三年八月薨
 今安政三丙辰近二百五十九年二成

豊臣秀吉者發自匹夫握日本于掌内始

仕信長多有謀略亡毛利討明智殺柴田

擊島津滅氏政日熾月盛升位歷官為

關白而讓之世稱太閤遣兵侵略朝鮮

芳名播異域

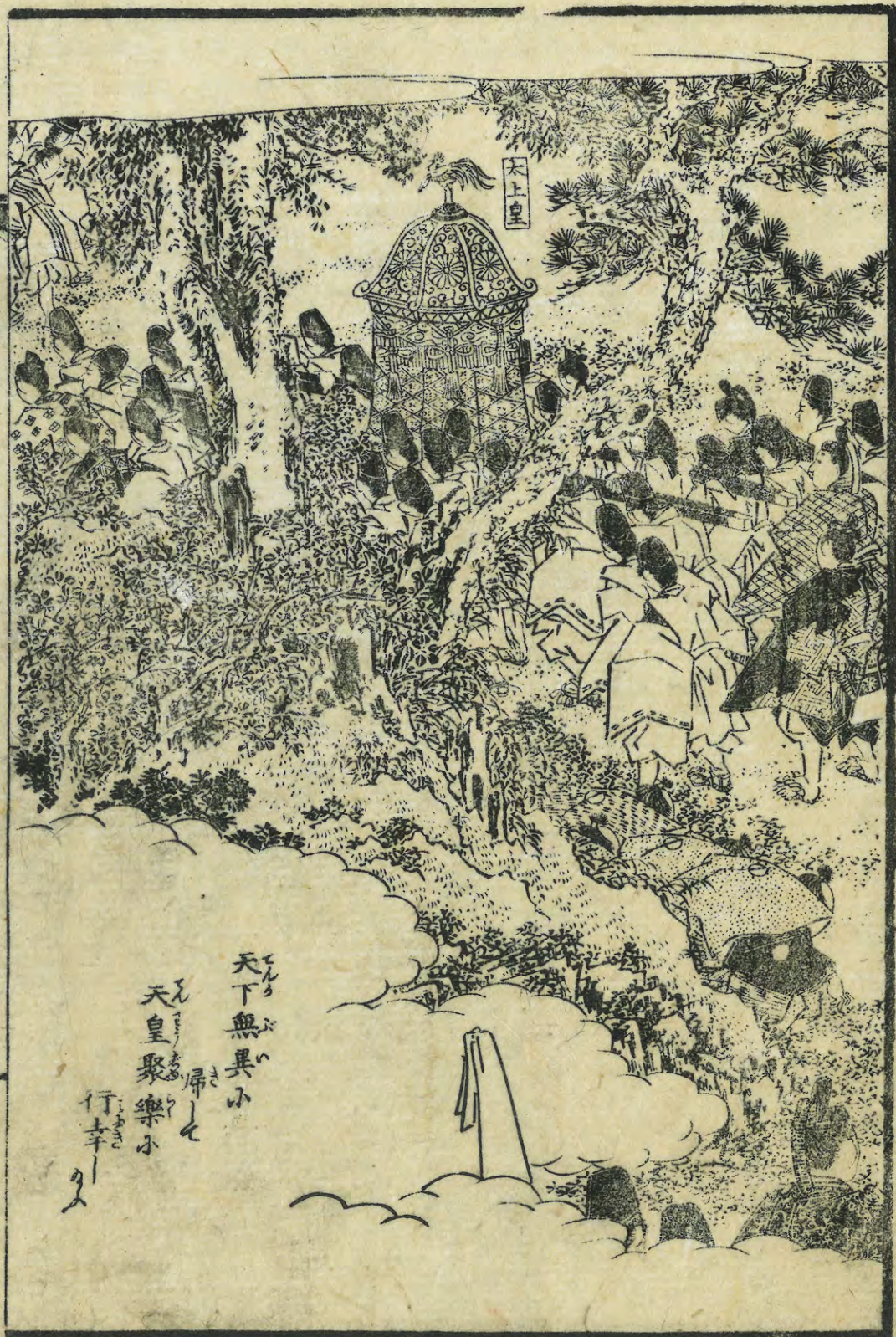
豊臣秀吉朝臣
 于下地院感
 位極人臣
 家式微之時
 一不圖近龍
 而能解出蟻
 人而生命也云

本朝更無比類あり。匹夫より起りて官位人臣を極む千古一人のこ

豊太閤の詔

あの公の事蹟眞書太閤記及びその除の實記實御世の多端ありて牧事を漁父もみまを智と
る出處を伴さる徳を稱へ今きく何ぞを賛言すべきに但る載る貞徳が戴恩記の現し東
國が國史略おとえ天野伝景が陸奥の事といふ秀吉のうき尾別之民同より出でるが利すべ
きありこれと事とよりいへば不魚の雲の上の交ををあらん但し母若き内裏の御子
祈の下さういふあり玉體小付づきなりじりありそ夜のお小成す万の由板箱は勢より捕
獲全きまもあつたををわくといふ又千を振神の由てさういふよりてこのふに後を感づきまを
懐胎せしことこの後のあひぬと受をて下果あらんまは彼戴恩記の由に據るなるべし又東國
國史略のいふ豊太閤吾母日懐懷小公と夢て吾を生じといふとせし傳あり蓋徳終とてその
皇祖といふありある小公の實を吐づるあり初廷を憐れを固より其後之施某院の二語
い偶感激喜悦の原り小公を必とてその実を神とて称す天正新日輪の愛は祀りて必とこれと云ふ

う。或ひはさるる小北さる。是小園てことと觀る。則豊公の興る園より種あり其智勇の兼備牧
年の間私を檢ひ正をる。天子と翼戴し諸大名を糾令し法を約束し垂れ必て武將万世の
軌則とす者ハまこと宜あらむ。松苗常小の我。神國大外國と異あり。天下ハ即人の天下。
天子ハ實小天上の王は將相固より種あり。故て以て右今の豪雄。佐將相不至。及び天下の權を
軌の末曾て微賤の人あり。平相國のとき固より。皇祖なり。鎌倉の右大將及び北條氏。是利
將軍織田右府のとき。植武。清和の皇裔なり。乃ち豊公の系戴恩記する所實言
不也。延説小あさるるを。世不豊を謂て凡種奴隷の出此とする者ハ豈を正然乎と云え。こ
の辨は小確論あり。かゝる豊公を海にひ聚樂事を遠當あり。こも不幸あると清ふ
天皇とまを許る。公國て能く必小令。應永中將軍義滿の第小幸。永享中義教の
第小幸あり。故典を採。公卿の記籍を考ぐる。こもを就て。かゝる天正十六年四月廿日。因
興四の門を歩北。正親町を過て聚樂小到る。公警衛の諸侯六十餘人。希後無通と校こ



けいひつうしんいせいの 多きん 一あんあまのちの ちまき さき けい さき いちう かのき きい つく
終言 聖令 整齊 有う。遠近の士人 聚を拜するの 街小 遮る市を 欄る 第中の 夏景 奇麗を 盡し。
花竹 美木 茂きを 多ふ。天顔 本悦び 多う。酒之 献ふ 及び 豊云 小 天血を 賜ふ 後 小 夜遊の 言
法あり。番五 帝樂 三番 郭曲 三番 太平樂 十五日 清和 ありて 諸大名 小 盟り 十六日 大 小 公卿 諸
大名を 宴を 上皇 天皇 所製の 和歌を 賜ふ。十八日 天皇 宮小 還する 多 黄令 百兩 金欄 二十卷
麝香 木の 厨子 箇衣服 百領 絹百匹 合の 建蓋 金基 堂各 二箇 白銀の 盆小 馬十 疋 張即之 千 字 文
名畫 三幅 沉香 百斤を 奉献す。その 厚親 王國母 及び 公卿 太夫 諸君 百寮 賜進 ありて 差ありと
ぞ。氏小 親を 縦一の 八 四方 波の 如く 小 本を 地上 小 蹲す ことを 拜し 父老 或は 涙 成 流りて 國ら
ざる こと 今日 始めて 太平の 象を 觀ふと 奉りて 萬世を 福ひけり

日本百將傳一夕話卷之十二終



安政四歲次丁巳春正月新鐫發行

東都書林

日本橋通二町目

山城屋佐兵衛

大坂書林

心齋橋筋博勞町

河内屋茂兵衛